

平成  
22年度

# 卒業生 特別功労賞



試合  
で



**岡田 正義 (1981年 電気工学科卒)**

私は大学1年の時にサッカー審判員の資格を取り、工学部体育会サッカー部と共に活動していた。私には審判の資格を取った時からの夢があり、それはイングランドのロンドン郊外にあるウェンブリーサッカー場のピッチに立つことだった。サッカーファンならば誰もが知っているサッカー場である。ワールドカップに審判として出場してその実力が認められればウェンブリーのピッチに立てるかも知れないと思った。大学3年の時、部活動と審判活動の両立が難しくなり、部長で当時応用化学科の又重英一先生に相談した。先生は「人生一度しかないからやってみろ」とサッカー部の退部を認めてくれた。私は1981年工学部電気工学科を卒業し、(株)日本ビジネスコンサルタント(現:(株)日立情報システムズ)に就職した。その後、市役所、Jリーグ事務局と転職し、1998年に目標にしていたワールドカップフランス大会に審判として出場することができた。2002年からは日本初のプロサッカー審判になり、昨年12月審判現役生活に終止符を打った。ウェンブリースタジアムには立つことはできなかったが審判人生に悔いはない。私は工学部の卒業生としては異端児かもしれない。しかし、私は又重先生のことばと東洋大学の卒業生としての誇りを常に持ちながらピッチを走り続けた。

(財)日本サッカー協会 審判部 参事 岡田正義

水分取支を考慮した木造外皮の耐久性評価のための木材腐朽予測モデル  
建築外皮の湿害に対する評価手法の開発 その1  
業 績: 2010年日本建築学会奨励賞  
齋藤 宏昭(1992年 建築学科卒)



木造住宅の長期性能の予測モデルに関する研究論文が、日本建築学会の2010年度奨励賞を受賞した。日本建築学会の奨励賞は、若手研究者の独創性・萌芽性・将来性のある建築に関する優れた業績を対象とする賞である。この研究では建築工学に生物工学の要素を導入し、漏水や結露などで数年から数十年の時間を経て躯体の強度が低下する現象の予測を試みており、サステナブル住宅の開発などへの応用が期待されている。(財)建材試験センターにおける実務の経験の後、カナダ天然資源省、(独)建築研究所など国内外の研究機関を経るといふ異色の経歴で、若手研究者としてアカデミックの分野や国の研究プロジェクトで優れた業績をあげている。

## アジア大会男子マラソン 北岡幸浩選手が銀メダル!!

NTN桑名製作所内 陸上競技部  
北岡 幸浩 選手(2005年 情報工学科卒)



中国・広州で開催されたアジア大会の最終日(11月27日)の男子マラソンで、本学卒業生の北岡幸浩選手(28)<2005年3月工学部情報工学科卒業/現在NTN所属>が銀メダルを獲得。北岡選手は日本勢トップで2時間12分46秒でゴールし、銀メダルを獲得したため、今年8月に韓国・大邱で行われる世界選手権の男子マラソン代表に内定した。  
(写真は1月3日、箱根駅伝選手慰労会にて)

## 箱根駅伝観戦記

2年前、第85回箱根駅伝で東洋大学が初優勝し、お祝いのメッセージが全国を駆け巡って多くの卒業生に感激と勇気を与えてくれた。5区山登りの柏原選手の凄さは、戦前もれ聞いてはいたが、新・山の神と称えられ、全国の駅伝ファンに衝撃を与えた。第86回大会は往路優勝の後、一旦は2位に順位を下げたものの8区でトップに立つと、9区で差を広げ、ゴールする前から神奈川の同窓生と祝杯を上げた。3連覇の期待がかかる中、第87回大会がスタート、優勝争いは東洋、早稲田、駒沢の3強と予想される中、見事に往路優勝を果たした。特に、5区の柏原竜二選手は昨年の記録には及ばなかったが、3年連続区間賞と往路優勝の立役者となった。一方、工学部建築学科4年生の千葉優選手は、2年生の時から3年間8区を走り、2位、2位、区間賞という工学部の選手として最高の成績を残した。早稲田大学に21秒及ばず3年連続の総合優勝は逃したものの、これまでの箱根駅伝の記録を塗り替える輝かしい成績を打ち立てた。川越キャンパス連合育成会では、箱根駅伝で活躍した工学部の選手を表彰してきた。今年も8区で区間賞の千葉優選手が、3年連続の功労賞を受賞した。千葉選手が建築学科の4年生で、「地震防災に関する調査」を卒業研究のテーマにしていることがテレビ中継で紹介された時は感激した。就職先のホンダでさらにその走りに磨きをかけ、今年の世界選手権のマラソンに出場する北岡幸浩選手(卒業生特別功労賞受賞:工学部情報工学科卒)に続いて、日本代表として活躍することを期待したい。

(建築学科:松下)

